寺報

令和３年４月

両讃寺
恵心寺
発行　〒６１０−０３４３
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話　0774-62-3137

「両讃寺 薬師如来の考察（西八の土地）」

新しい年度が始まりました。依然コロナが収まる様子はありませんが、皆様にとって心機一転実り豊かな年度になりますよう祈念申し上げます。

昨年十月より両讃寺の薬師如来についての解説を行っております。

両讃寺の本堂は、敷地の北に配置され、南を向いて建っています。

その為、毎朝のお念仏を行う時、住職は北の方角を向いて御本尊様を拝むことになります。

夜間、本堂を外から拝むと、本堂中心のすぐ上に北極星を拝むことも出来ます。

では、仮に両讃寺本堂から北極星の方に向かい、ひたすら北に真っ直ぐ歩いていくと、どこに到着するでしょうか？

なんと、何の障害もないまま、北へ北へと進むと、京都の羅生門跡、朱雀大路（現 千本通り）、大内裏（旧 御所）、そして京都北区の船岡山にたどり着きます。

京都に平安京が造られた時、都の中心線として朱雀大路を南北に通しましたが、その道は京都の舟岡山と京田辺の甘南備山を結んだ線上にあるというのは有名な話です。

京都は四神相応の地として天皇のお住いである御所へ、気の流れが導かれるよう計画されていたと言われています。

その最南端の起点が甘南備山。そして、その間に位置するのが大住であり、両讃寺、恵心寺であり、大嘗料のある西八の土地であります。

京都には鬼門にあたる北東に比叡山が配置され、京都を守護していると言われていますが、比叡山のご本尊様は何という仏様でしょうか？

答えは薬師如来です。

また、京都の北西は神護寺が配置され京都を守護していると言われます。そちらの御本尊様も薬師如来です。

京都の夏至の日は比叡山か日が出、神護寺の山に日が入るとも言われています。

また、一説によると、神護寺の薬師如来様は、昔は八幡の男山周辺でお祀りされ、そこで京都の南西（裏鬼門）を守護されていたとの言い伝えもあるようです。

さらに、神護寺のお薬師様は、御神木の一木造りで、神様の相が伺えるという特徴があり、それが両讃寺の薬師如来の特徴と共通しているということを、良く例に挙げられます。

あくまで、憶測に過ぎませんが、両讃寺の薬師如来様が、ちょうど平安京の真南、甘南備山との線上に位置する西八の場所に祀られていたことは、全くの偶然では無いのかもしれません。

比叡山や神護寺のお薬師様同様、京都の南方の守護を担っていた仏様であったかも知れないと考えるのも面白いかもしれません。

また、今年もコロナの影響で十三参りは中止となりましたが、四月十三日ご開帳の虚空蔵堂も、ちょうど甘南備山の山頂と岩清水八幡宮を結んだ線上に位置します。

古来より霊場は、綿密に計算された位置に配置されたと言われております。

皆様もお寺や霊場をお参りの際には、地理的な背景にも思いを馳せながら参拝されますと、大変おもしろい発見があるかもしれません。